

くじゅう^{ぼう}坊ガツル湿原一帯における環境保全活動



平治岳に咲くミヤマキリシマ(手前)と坊ガツル湿原(奥側)

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた湿原(約53ha)です。多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することなどから、2005年に国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

当社は、地域環境との共生を目的に、2000年から15年間にわたり、環境省や竹田市、「九重の自然を守る会」など、地域の方々との協働により、坊ガツル湿原の生態系を保全するための「野焼き活動」を実施しています。この取組みにより、大分支社が「阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念式典」において、環境省九州地方環境事務所長表彰を受けました。

また、坊ガツル湿原の貴重な自然環境を活用した取組みや、坊ガツル湿原に隣接する平治岳の自然環境の保全などについても検討しています。

坊ガツル湿原一帯での活動を通じて、地元の方々と共に自然環境を守ります

坊ガツル湿原野焼き活動



野焼きの様子

湿原の維持を目的に、かん木や雑草が茂ることを防ぎ、新しい草の芽立ちを促すため、野焼きを実施しており、2014年度は、3月25日に実施し、当社社員を含む80名のボランティアの方々に参加いただきました。

毎年、約8か月の間に、以下の3つの活動を行っています。

- 輪地切り・輪地焼き(8~9月)
- 野焼きのための防火帯作り
- 野焼き(本焼き)(3月)

坊ガツル湿原外来種(植物)駆除活動



除草作業の様子

湿原の生態系維持のため、外部から持ち込まれた外来植物を手作業で除草しています。2014年度は、8月21日に実施し、当社社員・OBを含む30名のボランティアの方々にご協力いただきました。

また、作業終了後には、駆除活動に体験で参加した小学生2名を対象に、坊ガツル湿原に自生するオニユリ、トモエソウなどの草花の観察会を行いました。

今後に向けた検討



平治岳のミヤマキリシマ

坊ガツル湿原の貴重な自然環境を活用した環境教育の実施を検討しました。また、近年衰退傾向にある、平治岳のミヤマキリシマ(大分県準絶滅危惧種)の植生保護と平治岳登山道の整備について、協働先の方々と今後の進め方を検討しました。

⇒検討を踏まえた2015年度の取組み概要は(P.52)に記載しています。

>>私の環境アクション



自然の恵みに
感謝して、
地域の皆さんと
活動しています。

九重の自然を守る会
副会長 ^{たかはし ゆうじ ろう} 高橋 裕 二郎

春から夏にかけての坊ガツル湿原は、芽吹いた若草により緑一面の絨毯に姿を変え、ミヤマキリシマの開花によりピンク色に染められた山々とともに、多くの登山者や観光客を癒しています。しかし、この素晴らしい景観は、自然の営みだけで維持できるものではありません。

九州電力さんをはじめ、地域の皆さんに九重山群の自然再生や景観維持のため、1年を通して坊ガツル湿原の野焼きや外来植物駆除、ミヤマキリシマ植生保護や登山道整備などを実施していただいているおかげで、くじゅうの自然は再生し維持されているのです。特に、1999年に活動を再開し、今年で17年目を迎える野焼き活動は、地域における環境を守ってきた歴史であり、文化でもあると感じています。

今後も自然の恵みに感謝して、この素晴らしい景観を守り続けていくため、九州電力さんと共に永く活動を続けられることを願っています。